＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

広げよう！学びと仲間の輪

～寺子屋～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要など

１．プロジェクトの名称、目的など

本プロジェクトの名称は､｢広げよう！学びと仲間の輪～寺子屋～｣である。

私たちが生きる現代は隣に住んでいる人を知らない、言葉を交わしたことがないなど、家庭と地域社会との関わりが希薄になってきている。さらに､2020 年の新型コロナウイルスの拡大により学校は一時休校など、ますます人と関わる機会が減ってしまった。そのように社会が複雑に、不安定になるにつれて、様々な人と関わる力が子どもたちに求められているが、それを学校教育だけで育むことは容易ではない。そこで私たちは、かつて「寺子屋」として教育を担ってきた、教育の原点ともいえる寺院に着目し、社会教育の視点から子どもに関わろうと考え、本プロジェクトを行うこととした。

２．代表者および構成員

・代表者

梅田ちひろ　社会領域専攻　４回生

・構成員

木本玲央	社会領域専攻	４回生
山本拓人	理科領域専攻	４回生
淺澤一朗	理科領域専攻	４回生
奥山加奈子	国語領域専攻	３回生
道端啓吾	理科領域専攻	３回生
富永葵海	理科領域専攻	３回生
小坂陽加里	理科領域専攻	３回生
林英美里	英語領域専攻	１回生
岡田夏歩	英語領域専攻	１回生
北角美乃	英語領域専攻	１回生

３．助言教員

市田克利先生（教職キャリア高度化センター）

４．協力団体

遍照院（京都府宇治田原町）

本プロジェクトで予定していたイベント会場であり、イベントの企画から協力していただいた。

第２章　内容や実施経過など

１．イベントの準備

（１）当日の企画

◎時期：４月～7 月

寺院、遍照院に協力していただき、開催する 2 回のイベント「てらこやへんじょういん」の内、8 月に予定していた分の企画を主として行った。学生全体での打ち合わせはなく、グループ LINE での情報共有、またその企画に携わっていた学生のみを集めての打ち合わせを２回行った。遍照院とは３月、４月に１回ずつ日程調整や新型コロナウイルス感染対策を中心に打ち合わせを行った。

８月の企画については以下の通りである。

【新型コロナウイルス感染予防対策について】

・イベントや現場での打ち合わせの 2 週間前から毎日の健康チェックを行う。
・手指衛生管理
・イベント当日の３密の回避
・濃厚接触等の恐れがある活動は行わない。
・環境消毒の徹底
・イベントでの飲み物は各自で用意、持参してもらい、これを共有することは禁止する。

◎当日の感染予防対策

・予め会場の消毒作業を行う。
・参加者には２週間前から健康観察を依頼。
・当日参加する学生、お寺のスタッフも同様に健康観察を実施。
・受付時に、検温と消毒、口頭での健康チェックを行う。
・使用する机は１人１台とし、十分な間隔を

保つ。

・工作道具も１人１セットとし、道具の共有は行わない。

・窓は常に開放し、換気を十分に行う。

【イベント内容】

◇自己紹介、アイスブレイク（詳細未定）

◇モノづくり（フォトフレーム）

イベントの思い出に残るものとして工作を作る予定だった。

工作は身近な物を使うことで、身の回りにあるものを大切しようとする心を育むねらいがある。また、対象となる子どもは中・高学年が多いと予想されたため、作業も単純すぎず、装飾で自由に楽しく作業できるように考えた。完成形としては写真の通りである。

◇実験（「シャボン玉を作ろう」）

身近にあるストローと食器用洗剤等を使用しての実権を考えた。感染予防対策の観点で、道具を共有しないように、密にならないようにするため、実験は学生が行い、それを子どもたちが見る形で進める予定だった。

◇おもちゃ流し

子どもたちの積極的な交流を図ることを目的とした。

◇お寺掃除・おつとめ

寺院との打ち合わせの中で、「子どもにとってお寺は近寄りがたい・怖いなどの印象があるのではないか」というお話をお聞きした。そのような子どもたちに友達と「お寺ならでは」の体験をさせることでお寺での楽しい思い出を作るねらいで企画した。

※１１月のイベントは中止の決定が早かったこともあり、感染対策を兼ねて遍照院ではなく地元の公民館で体を動かす遊びや実験をしたい、という大枠しか決まっていない。

（２）イベントの広報

◎時期：７月下旬～

イベントを広報するために、以下のようなチラシを作成した。新型コロナウイルス感染対策のため、今年度は昨年度同様、これまでのイベント参加者のみへの広報に留めた。チラシと一緒に感染予防対策についてのお願いも一緒に各家庭に送付した。

２．イベントの実施

８月、11 月に予定していたイベントは新型コロナウイルス感染拡大のため、子どもたちや地域の方々の安全を考慮し、昨年度に引き続きイベントを中止することを決断した。

第３章　結果や成果など

前述したとおり、予定していた２回のイベントを行うことができなかったため、イベントを通しての結果や成果を得られることはできなかった。

第４章　まとめと反省、今後の展望など

１．まとめと反省

今年度は、このプロジェクトを今後も継続的に行えるために、①1，2 回生のプロジェクト参

加、②コロナ渦を考慮したスケジュールの２点に重きを置いて活動を開始した。①については、新たに 3 人の 1 回生がプロジェクトに加入し、アイスブレイクや工作の考案などイベントの企画に精力的に参加してくれた。②については、昨年度の経験を活かし、イベント日程を４月の企画の段階で 8 月と 11 月の２回設定し、今年度こそイベントが実施できるよう動いた。それぞれの活動も８月は従来通りの内容で、11 月は新たな試みをしようと考えていた。また、新型コロナウイルス感染対策も昨年度以上に慎重に、より注意深くお寺との確認も重ねた。

反省点としては、豊富にいる学生の力を活用できなかったこと、これまでのイベント参加者や地域の人々とのつながりが全くもてなかったことである。プロジェクト継続のための活動が全くできなかったことは今後の活動に大きく関わってくるだろうと考えている。また、2 年前の参加者のほとんどが高学年、あるいは中学生となっており、来年度以降イベントを行うとなると新規の参加者も募る必要がある。新型コロナウイルスの感染状況がどのようになるか分からないが、ある程度広告活動などが規制された状態でどこまでこのプロジェクトを地域の方に周知してもらうことができるか考えていかなければならない。

２．今後の展望

（１）学内における活動

今後の展望として、まず、学内における広報活動を行いたいと考えている。私たちの活動をより多くの学生に知ってもらい、様々な学年・領域の学生が集まるという強みを生かしてより良いイベントの企画などを行っていければと考えている。

（２）学外における活動

今年も夏休みに遍照院をお借りして開催したイベントのみであったが、今後は外部団体と協力したり、遍照院での新たな活動を企画したりなど、活動の幅を広げていきたいと考える。